

平成 23 年度事業報告詳細

1 事業の成果

インドへの教育支援を行うとともに、その広報活動、講演活動、募金活動、教育交流活動、およびそれらに付随する活動を行った。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	(A)実施日時 (B)実施場所	報告内容
<p>①各種イベント、講演会の企画・運営に関する活動</p> <p>⇒日印教育支援センターの活動に関する講演会を行い、国際協力・海外支援へ関心を持つ機会を提供するとともにインド学校支援を呼びかけた。</p>	兵庫県珠算連盟での講演会開催	(A) 23年5月22日 (B) 兵庫県民会館	兵庫県珠算連盟の先生方90人を対象に震災ボランティアと国際協力についての講演を行った。 講演内容 ・ チャレランを通じたボランティア・津波被害の特徴と正しい情報 ・ 日印教育支援センターの目指すもの・学校を作るにいたった経緯 ・ 地球人としての意識
	京都市洛風中学校校内研修会での講演会開催	(A) 23年7月22日 (B) 京都市洛風中学校	洛風中学校教職員13人を対象に国際協力についての講演を行った。 講演内容 ・ インドの教育から学ぶこと・日印の教育交流・ボランティアの精神・社会を変えていく教育の大切さ・学校設立と今後の目標
	インド算数に関する特別研修会開催	(A) 23年10月30日 (B) 神戸市産業振興センター	兵庫県珠算連盟の先生方16人を対象にインド支援学校理事長によるインド算数の講演会を行った。
	京都市中学校退職校長会研修会での講演会開催	(A) 23年11月6日 (B) 聖護院御殿荘	退職中学校校長、京都市教育委員会の方々33人を対象に大震災の救援活動とインド学校支援についての講演を行った。 講演内容 ・ 阪神淡路大震災以来のボランティア活動・東日本大震災に被災した気仙沼の大谷中学校の冬みずたんぼの再生・日印の教育支援活動・ライフワークとしてのボランティア活動

	スタディツアー 説明会参加	(A) 23年11月8日、 9日 (B) キャンパスポ ート大阪、キャン パスプラザ京都	スタディツアーを実施する旅行 会社マイチケット主催の説明会 にブース出店参加した。スタディ ツアー参加者拡大に努めた。
	スタディツアー 経験交流会参加	(A) 23年11月9日 (B) キャンパスプ ラザ京都	スタディツアーを開催するNPO代 表者が集まり、過去に経験したト ラブルと対応についてシェアす ることで、より安全にツアーを行 えるよう交流した。
	資源調達講座 & 交流会参加	(A) 23年11月26日 (B) 福知山総合庁 舎	NPO関連の研修・セミナーへ参加 し活動へ活かせる力をつけるこ とを目指した。 講座内容 ・資源(ヒト・モノ・カネ・アイ デアなど)調達について・NPO活動 への融資制度について・企業とNP Oの連携について
	立命館学校教育 研究会 総会・分 科会参加	(A) 23年11月27日 (B) 立命館大学	NPO関連の研修・セミナーへ参加 し活動へ活かせる力をつけるこ とを目指した。 研究内容 現代社会を「地域の視点」から見 る一日本の教育に足りているも のと欠けているもの一」京都教育 大学教授 香川貴志氏
	企業とNPO共 働のフェスタ参 加	(A) 24年1月20日、 24年3月2日 (B) きらっ都プラ ザ(京都産業会館)、綾部市中央公 民館	京都市の各企業がCSR(企業の社 会的責任)を果たすために、NPOと 協働するためのマッチングをは かるイベントに参加した。京都で 初の試みだったためか、来場企業 が少なく、協働企業との提携にま では至らなかったが、海外と本格的 に教育活動をしているNPOは他 になく、注目を集めた。
②文化交流(コン サート、写真展等) の企画・実施に関 する活動 ⇒チャリティコン サート開催により 広く活動を広報し 、インド学校支援 を呼びかけた。	設立イベントチ ャリティコンサ ート開催 インドの子ども たちの絵の展示 会開催	(A) 23年7月17日 (B) 妙蓮寺 (A) 23年7月17日 (B) 妙蓮寺	日印教育支援センター設立に伴 い設立イベントを開催した。参加 者60人。第1部の講演では、イン ド教育支援について理解を深め てもらい、第2部はジミー宮下様 、矢吹紫帆様、矢中鷹光様のご協 力でチャリティコンサートを開 催した。 設立イベントと同時にインドの 子どもたちの描いた絵の展示会 を行った。

<p>③インドの学校訪問スタディツアーの企画・実施に関する活動</p> <p>⇒支援学校を訪問し、実際にインドの子どもたちと交流してもらうことで、支援の成果を実感するとともに、インドの教育から学ぶ機会となった。</p>	<p>第1回スタディツアー実施</p> <p>インド現地調査</p> <p>第2回スタディツアー実施</p>	<p>(A) 23年9月17日～24日 (B) インド</p> <p>(A) 24年1月25日～2月3日 (B) インド</p> <p>(A) 24年3月25日～4月4日 (B) インド</p>	<p>理事長と会員4名でインド支援学校視察と子どもたちとの交流するスタディツアーを実施した。不登校もいじめもなく、目を輝かせて学ぶインドの子どもたちの姿は、今の日本の学校教育に大いに参考になるものである。一方的な支援でなく、教育を軸に相互に高め合う関係を築いていきたいとの認識を新たにした。</p> <p>理事長と会員1名でインド現地視察調査を行った。支援学校視察、就学環境向上のための方策検討、州議会との会談、CBSE認可に向けての取り組みを行った。</p> <p>理事長と会員12名でインド支援学校視察と子どもたちとの交流するスタディツアーを行った。岡部理事の指導で「チャレラン」を支援学校で開催し、子どもたちと楽しく遊びながら交流した。そろばん教育に携わる方々が多く参加してくださったことにより、そろばんを使った交流を行った。インドでそろばんに大きな関心が寄せられ、今後支援学校にそろばん教育を定着させる計画となった。他の学校や大学の視察も行い、インドの教育の現状を様々な角度から体験できた。また支援物資を支援学校に届けた。</p>
<p>④学生の海外ボランティア活動の企画・実施に関する活動</p> <p>⑤修学旅行の企画・立案、ホームステイの提供に関する活動</p>	<p>国際学を学ぶ大学生が現地でのボランティア活動を実体験する場を提供する。</p> <p>国際的視野を広げる目的の修学旅行の企画・立案、ホームステイの提供を行う。</p>	<p>(A) 随時 (B) インド</p> <p>(A) 随時 (B) インド</p>	<p>インド支援学校でのボランティアは通年受け入れ可能であるが、参加希望者がなかったため本事業年度は実施しなかった。広報活動を工夫していきたい。</p> <p>修学旅行の実施など、学校単位で国際支援に積極的に取り組んでもらえれば、多くの人々に活動が広まり、支援活動の拡大と安定に繋がるが、希望がなかったため本事業年度は実施しなかった。広報活動を工夫していきたい。</p>

⑥日本とインドの学校間の交流に関する活動 ⇒インド教育支援並びに日本とインドの教育交流を図った。	インド無料教育校への寄付	(A) 随時 (B) インド無料教育校	インド支援学校の運営費への寄付を行った。震災の影響で国際支援への関心が薄れるなか、募金活動にはかなりの苦勞を伴った。支援学校運営は危機的状況であるため、支援者拡大のため工夫していきたい。
	日印学校間の手紙や絵画の交換等を通じた交流活動	(A) 随時 (B) 日本インド	インド支援学校と気仙沼大谷中学校との間で手紙・メッセージカード・ポスターの交換を通じた交流を行った。
⑦書き損じはがき・切手収集活動	書き損じはがき・不要切手の収集活動を行う。	(A) 随時 (B) 日本	チラシ等で呼び掛け、回収を行った。

(2) その他の事業

事業名	事業内容	報告内容
①インドの子どもたちの手作り品の販売	インドの子どもたちの職業訓練を兼ねた手芸品の制作、作品の販売を行う。	インドの子どもたちが描いた絵をプリントしたカバンを作成販売する案があったが、実施に至らず、本事業年度は実施しなかった。
②インターネットを利用した通信販売に関する活動	不要書籍等を回収し、通信販売を行う。	インターネットを利用した古本の販売を計画し、講習も受けたが、専任の担当者が必要であるため、人材の確保・給与等の課題があり実施が困難と判断し、本事業年度は実施しなかった。

(3) 事務局

事業名	事業内容	(A) 実施日時	報告内容
		(B) 実施場所	
① 広報活動	会報発行	(A) 随時 (B) 事務局	白い象の学校通信NO.1~3を発行した。インド支援学校の様子やNPOの活動が伝わるよう紙面を工夫していきたい。他にも学校要覧、支援案内、はがき回収チラシ、スタディツアーチラシ等を発行し、広報活動に努めた。
	ホームページ開設	(A) 随時 (B) 事務局	ホームページを開設し、随時更新している。インド支援学校の様子を伝えるページを作成し、学校を身近に感じてもらえるよう工夫した。ボランティア募集や協力企業募集の案内を掲載しているが、問い合わせに

<p>② 資金調達取り組み</p>	<p>会員の拡大と活動の活性化</p> <p>寄付案内・定期支援案内の送付</p> <p>企業との協力関係を推進</p>	<p>(A) 随時 (B) 事務局</p> <p>(A) 7月、3月 (B) 事務局</p> <p>(A) 随時 (B) 事務局</p>	<p>結びついていないため募集方法を改善すると共にホームページの内容充実努めたい。</p> <p>初年度の会員数は77名。会員が能動的に動いてもらえるよう工夫していきたい。独自に広報活動等を展開して下さると申し出た会員には名刺・チラシを送付した。会員が取り組みやすい活動の展開方法を検討していきたい。</p> <p>寄付を呼び掛ける手紙・自動送金での定期支援を呼び掛ける手紙を送り、インド学校運営の厳しい状況を訴え、協力をお願いしたが、安定した資金確保に至らなかった。さらなる改善が必要である。</p> <p>協働フェスタのイベントやホームページなどを通して企業との協働を目指してきたが、実際の協力関係には結びつかなかった。企業が取り組みやすい事業を提案して寄付や物資などの提供をお願いしていきたい。</p>
<p>③ 認定NPO法人化</p>	<p>認定NPO申請への取り組み</p>	<p>(A) 随時 (B) 事務局</p>	<p>認定NPO法が改定されたことから、説明会等に参加し情報を収集した。認可を取るメリット・デメリットを検討した上で取り組んでいきたい。</p>
<p>④ 東日本大震災復興支援事業</p>	<p>気仙沼大谷地区冬水田んぼ再生プロジェクト参加</p>	<p>(A) 23年4月29日～5月5日 (B) 気仙沼市</p>	<p>支援物資の輸送を行った後、地元NPOとの連携で気仙沼の大谷小中学校が環境学習で取り組む冬水田んぼの再生に取り組んだ。がれきやガラス破片を撤去し、地域の復興のシンボルとして再生した田んぼでは稲作が可能になった。またインド学校と大谷中学校の間で手紙の交換が行われ、国際交流のきっかけとなった。</p>